

生産性、品質競争力も向上

シヨットブラスト2機更新

梁加工、住金システム建築の鉄骨加工を手掛けるジェイエフ総業（本社・柏崎市、社長・和田典雄氏）は経産省の先端設備導入による設備償却制度（生産性向上設備投資促進税制）を活用し、今春H鋼用シヨットブラスト、プレート用シヨットブラストを相次いで更新した。最新設備の導入で生産性、品質で競争力を高める。

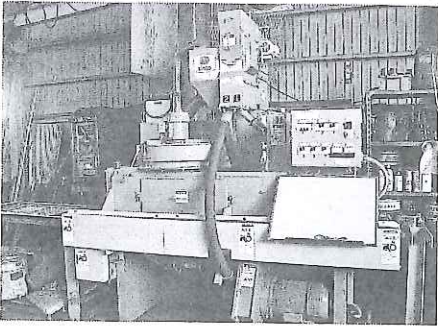
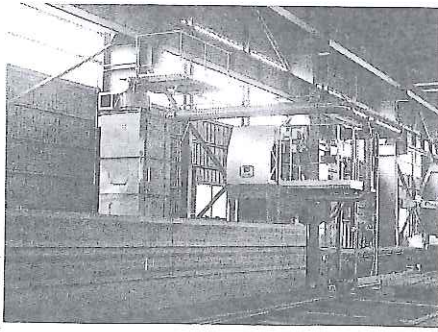
新機種に限り一回で償却できるメリットを生かし、老朽化や前期繁忙期が続いたこともあり導入に踏み切った。投資額は1500万円弱。メーカーは新東工業でH鋼用はKACX-450まで。特徴はIIで製品サイズは10集塵機の性能が向上し

工場の作業環境が改善した点。処理時間が短縮され、処理サイズが

拡大。プレートはこれまでグラインダーによる研削もあったが、極力シヨットブラストに切り替え品質のばらつきをなくす効果が期待できる。昨年6月にはタケダ

機械のガセットプレート用ドリルマシンGB1800をリースで導入した。設備投資の背景には老朽化だけでなく、先行き底堅い鉄骨需要が見える。和田社長は「S、Hファブは相当の仕事量を抱え、五輪まである程度の仕事が見える。そこを旨指して設備更新を計画的に行いたい」と語る。

住金システム建築の人も後押しする。鉄筋、型枠工の職人不足を補う基礎システムを有する倉庫、工場向けのパッケージが脚光を浴びている。従来は梁加工メインだが、現在はシステム建築用の柱加工も増加。柏崎に移転し、6年が経過。着々と次を要増の一端を担う。



導入した形鋼用シヨット①とプレート用シヨット

鉄鋼新聞

9/9